



Title	スラブ研究センター企画実施報告：6月19日 北海道とロシア極東地域の持続可能な開発に向けた環境フォーラム, 6月25-27日 北東アジアの冷戦：新しい資料と観点
Author(s)	長縄, 宣博
Citation	サステナビリティ・ウィーク2008 クロージングシンポジウム．平成20年7月11日．札幌市
Issue Date	2008-07-11
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/34524
Type	lecture
File Information	42-6.pdf



[Instructions for use](#)

スラブ研究センター 企画実施報告

6月19日 北海道とロシア極東地域の
持続可能な開発に向けた環境フォーラム

6月25-27日 北東アジアの冷戦：
新しい資料と観点

報告者：長縄 宣博

6月19日 北海道とロシア極東地域の 持続可能な開発に向けた環境フォーラム

会場：札幌ドーム 西棟会議室

- 参加者数：学内 30 名，学外 70名
- ロシア極東地域(沿海地方、ハバロフスク地方、サハリン州)と北海道から、自然科学と社会科学の研究者に加え、環境行政担当者が結集
- 自然科学者からの問いかけ
- 環境行政と開発：現状と課題
- 最新の研究成果を持ち寄った研究者と地域の環境問題の実務に携わる行政官との意見交換
- 多くの一般の方々も情報を共有
- 道の「環境宣言」への関心
- 環境問題と先住民



6月25-27日 北東アジアの冷戦：新しい資料と観点 場所：学術交流会館

- 参加者人数：学内 46名，学外74名(うち国内 44 名，海外 30 名)
- 「冷戦の終わり」の意味を問い直す
- 計22本のペーパー
- 基調講演は、元韓国外務大臣ハン・スンジュ氏
- 8セッションで、冷戦の指導者たち、学際的アプローチ、北東アジアの冷戦の終焉、日ソ関係、冷戦期のさまざまな同盟について議論を行う。



今後の展望

・環境フォーラム

- ・研究者と行政官が一堂に会す、国際的・学際的な協議を、特別教育研究経費プロジェクト「環オホーツク環境研究ネットワークの構築」などにより、継続していく
- ・中国を議論に巻き込む別の問題設定が必要

・冷戦のシンポジウム

- ・成果をスタンフォード大学出版会の国際冷戦史プロジェクト・シリーズから刊行
- ・2009年の東欧革命20周年にむけて次々に計画されている国際会議の先駆け：ハーバード大学、ワシントンのウッドロー・ウィルソン・センター、オクスフォード大学との共催を計画